

寺西 1 号墳の銀象嵌装大刀^{ぎんぞうがんそう た ち}

愛知大学総合郷土研究所
豊橋市文化財センター

1 寺西 1 号墳とは

所在地：豊橋市石巻小野田町字寺西

発掘調査：河川改修に伴う土取り工事のため破壊されることになり、昭和 40 年（1965）に愛知大学が発掘調査を行いました。調査後に古墳は滅失しました。

調査成果：直径 25 メートル、高さ 4.5 メートルの円墳。6 世紀後葉の築造。

横穴式石室は全長 7.5m。未盗掘。

横穴式石室から、大刀 10 振、短刀 2 振、鉄鏃約 240 点、馬具などの大量の鉄製品のほか、装飾須恵器が出土しました。

2 銀象嵌装大刀

出土後の経年劣化により、多くの大刀はサビが進行し崩壊していました。そこで一部の大刀を対象に保存処理（サビ落としとサビ止め、破片の接合）を行ったところ、1 振の大刀の刀身や鐔などから銀象嵌の文様が発見されました。

○銀象嵌装大刀の法量

全長 94cm、最大幅 4 cm

○銀象嵌文様の内容

銀象嵌装大刀は、①刀身、②鐔、③はばきの 3 か所に銀象嵌がありました。

①刀身

刀身には龍文と考えられる、長い線に毛のような多数の短い線が組み合わされた文様があり、文様の長さは約 15cm です。著しく退化した龍文と考えられます。

国内で龍文が象嵌された大刀は 8 例ほどありますが、刀装具に龍文が施されたものが一般的です。刀身自体に龍文が象嵌された例は、下記の 4 古墳の出土例しかありません。

- ・吉備塚古墳（奈良県） 5 世紀後葉
- ・島内 114 号地下式横穴墓（宮崎県） 6 世紀前葉
- ・新沢千塚 327 号墳（奈良県） 6 世紀中葉
- ・寺西 1 号墳（愛知県） 6 世紀後葉

前三者の出土例は龍文がリアルに表現されているのに対し、寺西 1 号墳例は文様の意匠が十分に理解されず、著しく抽象的に変化した表現になっています。

このほかに、銀象嵌装大刀の刀身には「魚文」と考えられるものや「花文」が見られます。龍文を含め、華やかな装飾や吉祥的な意味、さらにはまじない的な意味を持たせたものと推定されます。

②鐔（つば）

鐔は 8 か所の穴が空いた「八窓鐔」で、銀象嵌の文様が隙間なく施されています。「圏線 C 字文」と呼ばれる、区画と C 字形の文様を組み合わせたものです。鐔に銀象嵌が施された例は国内でも多く確認されていますが、これほど緻密に文様が見られる例は希少です。

③はばき

はばきは、刀身を柄（つか）に固定するため鐔に接して装着した金具のことです。いびつな花卉状になる C 字文様が見られます。

3 銀象嵌装大刀と寺西1号墳の評価

寺西1号墳は、古墳の規模から有力者の墓と推定されますが、東三河地方全域を支配するような権力者の墓とは言えません。恐らく、国造級の首長のもとに従い、補佐した地方有力者の墓であったと考えられます。

ここで注意すべきなのは、国内でも例が少ない銀象嵌装大刀に、どのような意味があったのか、ということです。銀象嵌装大刀は、当時の権威の象徴である「飾大刀（かざりたち）」の一種で、しかもきわめて希少なものでした。飾大刀はヤマト政権から与えられたものと考えられており、国造級首長の支配下ではありますが、政権から特別に認められた人物に与えられたものと評価できるでしょう。

また、破格ともいえる武器を中心とした大量の鉄製品から、軍事に深く関わった指揮官クラスの武人としての人物像が想定できます。

「寺西1号墳シンポジウム」では、銀象嵌装大刀や寺西1号墳自体の評価にさらに踏み込んでまいります。



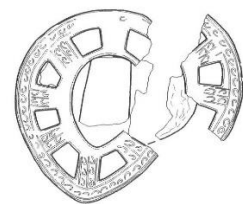
保存処理前の象嵌装大刀



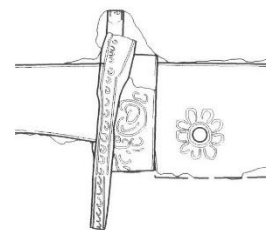
保存処理後の象嵌装大刀



刀身の龍文



鐔の「圏線C字文」



はばきと刀身の花文